



K.C. News
京都知福協だより

京都知的障害者福祉施設協議会
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館202

発行人 矢野隆弘



◆ 会長就任ご挨拶 ————— 1
 ◆ 新加盟施設紹介 ————— 2~3
 ◆ 新加盟施設紹介 (ケアホーム、グループホーム、居宅介護事業所等) — 4
 ◆ 事務所移転及び事務局員の紹介 ————— 4
 ◆ シリーズこんにちは ————— 5
 ◆ 会議・研修・行事案内 ————— 6
 ◆ 平成23年度収支決算報告書 ————— 7
 ◆ 森昇前会長を偲んで ————— 8
 ◆ 平成24年度京都知的障害者福祉施設協議会組織体制 ————— 8



▲ あしたーる工房、夏野菜と丹波黒豆畑

会長就任ご挨拶

京都知的障害者福祉施設協議会

会長 矢野隆弘



3月発行の本知福協だよりに、10年にわたり会長を引き受けていただいた森前会長が、私たちがの引継ぎともいえるメッセージを残していただ

ております。その中でも私の会長就任を触れただだきましたので、ご存じの方も多いと思います。この4月から会長をお引き受けさせていただきます。

2012年度の基本方針は、先に書きました前号本誌で森前会長が書いておられます。その基本方針にのっとり進めさせていただいているところ。

具体的には、4月より本会事務局を二条城北側にある京都社会福祉会館に設置し、新事務局員を配置しました。また、京都知福協の組織の変更点についても本誌前号2ページに中西副会長が報告されていますので省略させていただきます。部会と委員会について新事業体系との整合性を図り、新たなニーズに対応するための新組織体制をスタートし、新たな役員と各委員をお願いしました。

さて、昨年3月の東日本大震災は、同時に発生した福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の問題を含め、日本が今後どのように歩むべきか岐路に立っています。そのような中、期待する政治は混沌として、向に先が見えなく、日本国民一人ひとりが「本当にしっかりとしていかなければいけないのではないか」という思いを強く持っています。

このような厳しい環境の中で、障害関係の福祉も例外ではなく、多くの課題を突き付けられ、今

までの価値観を根底から考え直していかなければならない時期にきていると思っております。

福祉制度の相次ぐ見直しとそれに続く「障害者総合支援法」施行に向けての動き、また、この10月から施行される「障害者虐待防止法」や来年3月に国会提出予定の「障害者差別禁止法」そして「障害者権利条約」の締結に向けた動きについても、難しいかもしれませんが、今までの価値観とは違った形で動いていくことを願っていますし、その動きをつくっていかねばならないと思っております。

私たちが専門とする、知的に障害のある人たちの日々の実践活動の中で、たくさんの方の困難や矛盾があります。

今直面する主な課題を列挙してみると①本年4月から基本的に自立支援法から児童福祉法に移った障害児福祉の課題②会員事業所を利用している人の高齢化の課題③強度行動障害がある方の中でとりわけ特別に支援が必要な人たちへの支援の課題④障害がある人が地域で生活し続けるための社会資源(グループホーム、ケアホーム、通所施設など)の不足⑤担い手となる職員不足などを挙げることが出来ます。ほかにも課題はたくさんあるでしょうが、これらのことについて、一つひとつの課題を会員の皆様、行政の皆様の力を借りながら、着実に解決を図っていく必要があります。

紙面の関係上、言葉足らずを承知で書きますが、これらの課題を解決していくとき、私たち障害がある人とかかわる関係者として、障害のある人たちの本当の「豊かな生活」とは何かを真摯に議論する土壌を作り、障害のある人が真に「豊かな生活」を送ることができる社会をつくるという覚悟が必要となるのではないのでしょうか。朝夕にはできないことかもしれませんが、皆様のご理解とご協力を得ながら、「豊かな生活」の意味を深く考えていきたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

新加盟施設紹介

花ノ木医療福祉センター 「はなのき通所」



地域支援部
次長 宇野 稔

今年度から京都知的障害者福祉施設協議会に加盟させて頂いた「はなのき通所」です。昨年度までは、重症心身障害児施設花ノ木医療福祉センターの一部門として、予算補助事業である重症心身障害児者通園事業A型を受託、運営してきましたが、本年4月より障害者自立支援法、児童福祉法の改正により重症児者の通園事業が法律の中に位置づけられ、生活介護事業と児童発達支援事業に移行しました。

はなのき通所は、亀岡市の北部、JR並河駅、千代川駅から徒歩15分ほどの所に位置し、周りには住宅地や田園が広がり、とても静かな環境の中にあります。現在、成人17名、幼児3名が利用されており、11名の職員(内看護師3名)が支援しています。胃瘻、吸引等の医療的な対応が必要な方も多く、細心の注意が必要となっています。

朝8時を過ぎた頃から、利用者を迎えるための送迎車両4台が順に出発していきます。対象地域は亀岡市だけでなく、南丹市、京丹波町と広範囲に及ぶため、片道40km近い距離を通って来られる方もあり、最終の車両が帰着するのは10時頃になります。全員が揃うと3つのグループに分かれ、朝の会と個別の活動が始まります。体調のチェックを行い、それぞれの課題に沿ったリハビリや個別活動が中心です。昼食のあと、午後はサークル活動(紙漉き、陶芸、創作)、レクリエーション、入浴などを組み合わせて実施しています。その他にも、一人ひとりのニーズに合わせた外出活動(プール、カラオケ、散髪、ショッピング等)や文化的行事(音楽鑑賞、クリスマス会等)も実施しています。



平成5年に花ノ木が重症心身障害児者の通園事業を始め、まもなく20年を迎えます。5名の利用者から始まり、今では20名の方が利用されるようになりました。この間に、利用者の重度化、保護者の高齢化が進み、提供サービスの内容も少しずつ変化してきています。今後もういった利用者の変化と時代の変化に対応し、安全を第一に、利用者のニーズを十分に把握して、毎日笑顔で過ごしてもらえ「はなのき通所」でありたいと思います。

京都市だいが学園



京都市だいが学園
園長 寺地ヒサ子

京都市だいが学園は、平成15年5月に旧法知的障害者授産施設の京都市やましな学園だいが分園として開所しました。平成20年1月に障害者自立支援法の就労移行支援施設に移行するとともに京都市だいが学園として独立し、その3年後の23年1月に就労移行支援事業定員6名と就労継続支援B型事業定員14名の多機能型事業所として再スタートを切りました。

現在は、合わせて26名の利用者が通所されています。主に軽度の知的障害を有する方が多く、そのなかには自閉症を伴う方や、ダウン症、発達障害を伴う方等様々な特性を持ちながらも、学園内の多様な作業を通して、働くために必要な力を積み重ね、一般企業への就職を目指して様々な訓練をしています。学園の主力作業としては、ドーナツの製造、加工の仕事があり、D-プランチとして、近畿一円のスーパードーナツ直販事業では、昨年より始めたドーナツ直販事業では、卸販売とは違った商品を開発し、市内の支援学校や企業に販売に出かけています。販売先で直接お客様と接するようになって、自分たちが作ったドーナツを笑顔で買ってもらったり、「おいしかったよ。」と言ってもらったりすることで、仕事へのやりがいや喜びを今まで以上に肌で感じる事ができるようになり、利用者もより一層たくましくなっていますように感じます。また、箱おりやお菓子の袋詰め等の下請け作業や、館内清掃、また近隣の老人施設では、施設外就労の場として、チームで昼食の配膳、下膳などの作業等も行っています。

だいが学園は現在作業室の拡張工事を行っています。広がったスペースには新たにオープンを設置し、さらにお客様に喜んでいただける新商品を作っていくと思っています。

利用者ひとりひとりが仕事を通じて喜びと自信を感じながら豊かに成長し、地域でより自分らしく生活していけるよう、就労と生活の両面から充実した支援を提供していきたいと思っています。





京都いたはし学園
園長 寺本 眞澄

京都いたはし学園は、平成18年4月に京都市ふしみ学園いたはし分園として開設しました。その後、平成20年1月には障害者自立支援法の下、定員20名の就労移行支援事業所「京都市いたはし学園」として独立運営を始めました。昨年には、就労継続支援B型事業との多機能事業所に変更するのと時期を同じく、公設民営から法人の設置運営事業所となり、名称も「京都いたはし学園」としました。

作業メニューとしては、いたはし学園1階で「パン工房くーぺ」の看板を掲げてパンの製造販売を、伏見区総合庁舎1階の区民スペース横で「喫茶こぼん」を営んでいます。また、清掃事業にも取り組み乗馬クラブの馬房清掃や住宅地の清掃・除草に毎日出かけています。そしてこの8月からは、いたはし学園の隣に小さな3階建てを建築し、その1階で焼き菓子専用の工房を設け、「菓子工房プチポッシー」として営業を開始しました。

利用者方は、それぞれ希望する作業を通して就労に必要なスキルを獲得し、自立に向けてまい進されています。その他、就職を希望される方々には、履歴書を書

く練習や面接の練習、社会生活に必要なマナーの学習など必要に応じた訓練にも参加していただいています。

もとは知的障害者授産施設というところで、知的に障がいがある方(特に自閉症を併せ持つ方が多数)が利用されていますが、最近では様々な障がいがある方が利用されていますので、障がい特性とパーソナリティを理解するとともに、作業や学習を通してご本人の強みや適性に合った働きを模索し支援を進めていくために、職員のスキルアップも必須で課題となっています。

就労移行支援事業では、職員・利用者ともに切磋琢磨したのちに、晴れて就職を果たされた方々も、継続して働き続けるのは容易いことではないようで、問題が生じたときはその都度職場を訪問しご本人と職場の方のお話を伺い、解決策を講じるよう努めています。

就職後のお一人お一人が抱えるストレスは考えているより大きいことから、問題が生じる前にその芽を摘み取ろうとの思いで、OB会を結成しました。週2回、夕方施設に自由に立ち寄れることにし、些細な悩みや愚痴が話せる場を提供しています。更に年2回OBと職員で相談してレクリエーションを実施しています。その時には就職を目指している利用者にも希望に応じて参加していただき、先輩の仕事ぶりなどを聞かせてもらう機会としています。このような状況で、定員は20名ですが毎年利用者が増え続けているように感じています。

まだまだ未熟な施設ですが、これからも学園利用者の希望する働きを支え続けていきたいと思っています。



丸め作業



京都市山科障害者デイサービスセンター

京都市山科障害者デイサービスセンター
所長 高橋 憲二

平成5年に京都市東部の福祉拠点として、京都市山科合同福祉センターが開設いたしました。当デイサービスセンターはその3階部分に位置し、利用定員20名のところ、現在23名の方が登録されています。約8割が障害程度区分5、6の方であり、重度の知的障がいのある方が多く在籍されています。

日常プログラムの特徴として、主に午前と午後14時の2つのグループに分かれて活動しています。

- ① 利用者の能力に適した作業……ものを作るのではなく、機能維持回復訓練や集中力養成に着目して、コイン入れやスティック入れ、ビーズやボタンのひも通し等を行っています。
- ② アロマテラピーを取り入れた手足のト



スノーズレンルーム

リートメント……BGMを流し、指導を受けた職員による手足のトリートメントを行っています。心身をリラックスさせる落ち着いた時間となり、眠ってしまわれる方も居られます。

③ 近隣の散歩・外出……体を動かすことによる運動不足解消や、送迎車で滋賀県方面へ外出することによって四季を感じたり、気分転換を目的に実施しています。

④ あんずルーム(デイサービス分室)……近隣マンションを借入れ、その一室をスノーズレンルームとして活用しています。暗室を作り、光や振動等による心地良い様々な刺激を五感で楽しんでもらっています。利用者からの評判もよく、皆穏やかに過ごされています。他の部屋ではゲーム機Wiiを活用し、利用者と職員と一緒に楽しみ雰囲気も盛り上がっています。

その他のプログラムとして、創作(紙漉き・染め紙等)、音楽・体操プログラム等も適宜実施しています。

以上が主な活動内容ですが、職員が利用者へと向き合い、常にコミュニケーションを図りながら、事故が無く一日を楽しく過ごしてもらえよう取り組んでいます。

新加盟施設紹介(ケアホーム、グループホーム、居宅介護事業所等)

法人名	事業所名	管理者名	住 所
社会福祉法人 あげぼの学園	グループホーム・ケアホーム あげぼの荘	奥村 研也	南丹市園部町南八田ノ田20
社会福祉法人 いづみ福祉会	障害者相談支援センターいづみ	須河 浩一	木津川市加茂町里東里42番地
社会福祉法人 京丹波福祉会	あしたー風和里	寺阪 和博	南丹市日吉町上胡麻寺ノ下18 あしたー工房
社会福祉法人 京丹波福祉会	ヘルパーステーションあしたー	寺阪 和博	南丹市園部町横田7号7番地
社会福祉法人 京都身体障害者福祉センター	生活サポートセンター らいと	時任 百子	京都市伏見区紙子屋町544
社会福祉法人 なつな学園	サービスセンターふらっぷ	滝沢 一人	京都市右京区太秦安井春日町8
社会福祉法人 なつな学園	ホームかしの木	益川 正博	京都市右京区太秦安井辰己町2-63
社会福祉法人 なつな学園	ホームみどり	益川 正博	京都市右京区梅津徳丸町5-15 セントボーリアII
社会福祉法人 なつな学園	ホームなつな	高宮 郁子	京都市東山区渋谷通大和路東入二丁目上新ノ町367 井野良喜様方
社会福祉法人 なつな学園	ホームななくさ	高宮 郁子	京都市東山区慈法院庵町589-18 森岡様方
社会福祉法人 松花苑	マイライフ松花苑ウエスト	矢野 隆弘	亀岡市大井町小金岐北浦16
社会福祉法人 世光福祉会	ベテスタの家ケアホーム	中西 昌哉	京都市伏見区向島津田町182-1
社会福祉法人 世光福祉会	ベテスタの家居宅介護	中西 昌哉	京都市伏見区向島津田町182-1
社会福祉法人 世光福祉会	ベテスタの家ケアホーム	中西 昌哉	京都市伏見区向島津田町182-1
社会福祉法人 幸の会	神座ホーム	中井 克子	京都市北区上賀茂山本町62
社会福祉法人 桜梅会	みずほ寮	庄林 幸子	京丹波町和田大下33
社会福祉法人 山城福祉会	まきしまてくてく	松井 芳子	宇治市槇島町石橋13
社会福祉法人 修光学園	修光学園グループホーム	森 亮	京都市左京区山端川原町9-1 エクセレント修学院306
社会福祉法人 南山城学園	寺田ホーム	土橋 成人	城陽市寺田中大小152
社会福祉法人 南山城学園	障害者就業・生活支援センター はびねす	日置 貞義	宇治市大久保町北ノ山101番10
社会福祉法人 福知山学園	ケアホームすまいる	澤田 誉子	福知山市三和町千束833-1
社会福祉法人 菊鉢会	テンダーハウス ケアホーム緑の家	加藤 正樹	京都市左京区新柳馬場通仁王門下 菊鉢町320-8 すみれ荘
社会福祉法人 京都ライフサポート協会	サポートステーションあん	神崎 紀子	京田辺市河原受田45番10号
社会福祉法人 京都ライフサポート協会	あん'ず京田辺「わくわく」	高瀬 謙一	京田辺市東西ノ口3
社会福祉法人 京都ライフサポート協会	木の津ホーム	高瀬 謙一	京田辺市河原受田45 ブランドール京田辺301・302
社会福祉法人 京都ライフサポート協会	あん'ず京田辺	高瀬 謙一	京田辺市河原受田45 ブランドール京田辺301・302
社会福祉法人 京都ライフサポート協会	しょうがい者就業・生活支援センター「あん」	多田 潔司	木津川市山城町上狛前畑12-4
社会福祉法人 京都ライフサポート協会	障がい者生活支援センター「あん」	樋口 幸雄	木津川市山城町平尾横手43-1

事務局移転・事務局員紹介

4月より京都知的障害者福祉施設協議会でお世話になることになりました。

事務局の移転、新たな体制の中で京都知福協の一員として役割を担えることを嬉しく思います。これから京都知福協の組織・事業の充実に、皆様と共に取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

京都知的障害者福祉施設協議会 事務局員
田中里枝

事務局住所

〒602-8143
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519
京都社会福祉会館202
TEL:075-366-6699
FAX:075-366-6628
E-mail:kyoto-tifuku@cream.plala.or.jp

不在の場合、留守番電話または
会長施設「かしのき」へ転送して、対応させていただきます。



シリーズこんにちは
広報部員施設訪問記
洛西ふれあいの里授産園

訪問者：齋藤正樹（テンダーハウス）



施設外観



▲作品の数々



ろくろでの作業



アイロナーでの作業



HOP農園

7月も終わりに近づいたある日のこと、雲ひとつない夏空の下、西京区桂坂の閑静な住宅街にある洛西ふれあいの里授産園を訪ねました。当日は施設長の赤井和子さんに作業場を案内していただいた後、お話を伺いました。

洛西ふれあいの里授産園は平成元年に開所。当初は授産施設として開設され、すぐ近くにある西総合支援学校を卒業した方々が、在学中とほぼ同じルートで通所されるようになりました。そして平成23年11月に生活介護事業所として新体系に移行されました。初めは就労継続支援B型と生活介護との多機能型を目指していたそうですが、体制を上手く分けることが難しいことなどから断念。その後、「生活介護で今までの作業を続けても良いのでは」という考えに至り、その方が職員数を減らさずに支援を維持出来ることもあって、働く場であり続けることと生活の豊かさを重視して生活介護事業所となったそうです。利用者の方々ひとり一人がその人らしい働き方や日中活動出来るよう、通常の作業以外に創作活動や散歩をされたり、スキルアップのための取り組みをする方もおられました。

利用されている方は61名。作業は主にクリーニングと陶芸で、少人数ながら農園で働く方もおられます。クリーニング作業には45名ほどの方が従事されています。何台もの業務用洗濯機や乾燥機、仕上げの乾燥とシワ伸ばしを行う大型のアイロナーも設置されており、利用者の方々はいくつかの部屋に分かれてタオルやシャツなどをたたんでおられます。熱を出す機器が多いため作業場はとても暑く、皆さんこまめに水分を取ったり、時には休憩しながらそれぞれのペースで取り組まれています。取引先は近隣のスーパー銭湯をはじめ、多岐に渡るそうです。

続いて陶芸の作業場を案内してくださいました。ろくろで作る人だけでなく、型を使って作る人、お皿に絵付けをする人など、それぞれの作業に精を出しておられます。中には図鑑の写真を見て絵付けの練習をしている方もおられました。新しい試みとして釉薬をはじくシールを使って模様を作る、という製品も作っているそうです。これらの製品は五条坂の陶器まつりを主として、バザーなどで販売されています。職員に陶芸の専門家がおられ、品質を向上させていくことで商品が売れ、それが利用者の方々の喜びに繋がっていくのだそうです。また、陶芸教室も

開かれており、近隣の学校の児童が一生懸命に取り組んでいました。今の時期は夏休みの宿題になることが多いそうです。

最後に農園ですが、施設から少し離れたところにあり、「HOP農園」という名がついています。ここでは時期によってサツマイモや玉ねぎなどが無農薬で育てられており、採れた野菜はバザーで販売したりもされています。

施設全体を通して働き方の自由度が高く、工賃がほしい方はしっかりと作業をし、楽しみながら過ごしたい方はそれ以外の活動もしながら過ごしておられます。またそういう活動の中で利用者の方の意外な一面が見つかるともあるそうです。今後利用者の方々が作られた作品を商品に活用したり、一般の方にも見ていただく方法を模索し、働くことの喜びに繋がる仕事を開発していきたいということでした。

お忙しい中長時間の取材にに応じて下さった施設長の赤井さんを始めとする職員の皆様、そしてにこやかに迎えて下さった利用者の皆様、本当にありがとうございました。

平成24年度会議・研修・行事案内



全国施設長等会議
6月4日(月)・5日(火)
開催地:東京都



日中活動支援部会施設長研究会議
9月10日(月)・11日(火) 開催地:千葉県
京都知福協幼児通園施設のつどい
9月26日(水) 開催地:京都府立体育館



全国グループホーム・
ケアホーム研修会
7月2日(月)・3日(火)
開催地:北海道



全国知的障害関係職員研究大会
10月3日(水)～5日(金) 開催地:熊本県
全国障害者スポーツ大会
10月13日(土)～15日(月) 開催地:岐阜県
居宅・地域支援サービス研究大会
相談支援事業等研究大会
10月18日(木)～19日(金) 開催地:東京都



発達支援施設運営連絡協議会
全国知的障害児施設運営協議会
全国通園施設運営協議会
11月8日(木)・9日(金) 開催地:千葉県
近畿地区施設長会議
11月21日(水)・22日(木) 開催地:兵庫県



知的障害者福祉施設職員研修
(京都府社会福祉協議会と共催)
12月10日(月) 開催地:ハートピア京都
全国日中活動支援部会職員研修会
12月10日(月)・11日(火) 開催地:愛知県
全国授産施設運営研究協議会(仮称)
12月15日(土)・16日(日) 開催地:岐阜県
京都知福協職員研修会
12月21日(金) 開催地:京都市



生活支援部会全国大会
平成25年2月6日(水)・7日(木)
開催地:東京都
近畿地区職員研修会
平成25年2月14日(木)・15日(金)
開催地:和歌山県



地域支援・相談支援セミナー
(旧地域支援セミナー)
平成25年1月24日(木)・25日(金)
開催地:東京都

平成23年度

(平成24年3月31日現在)

収支決算書

京都知的障害者福祉施設協議会

収入総額	9,236,854円
支出総額	7,789,281円
差引残額	1,447,573円

(残額は次年度へ繰越)

◆収入の部

(単位:円)

大区分	中区分	予算額	決算額	差引増△減額	摘要(積算内訳)
会費収入		7,208,983	7,380,850	171,867	20,000円+(550円×定数)
	1.会費	7,208,983	7,380,850	171,867	全国3,178,500 近畿184,000 京都4,018,350
補助金収入		205,000	204,600	△ 400	
	1.京都市府	90,000	90,000	0	クラシックコンサート補助金90,000
	2.京都市	0	0	0	
	3.日本知福協	115,000	114,600	△ 400	地方会助成(還元金)
寄付金収入		600,000	501,000	△ 99,000	京都知的障害者福祉互助会175,000
	1.寄付金収入	600,000	501,000	△ 99,000	JICウエスト175,000 グローバルワイズメンズクラブ151,000
雑収入		5,094	628	△ 4,466	
	1.雑収入	5,000	532	△ 4,468	預金利息
	2.事業振興基金利息収入	94	96	2	事業振興基金利息収入
繰越金		1,149,776	1,149,776	0	
	1.繰越金	1,149,776	1,149,776	0	
収入合計		9,168,853	9,236,854	68,001	

◆支出の部

(単位:円)

大区分	中区分	予算額	決算額	差引増△減額	摘要(積算内訳)
分担金		3,642,500	3,645,000	2,500	
	1.日本知福協会費支出	3,173,000	3,178,500	5,500	事務局経由分
	2.近畿施設協議会分担金支出	180,000	184,000	4,000	@2,000×92 (4月時点)
	3.府市施設協議会分担金支出	279,500	272,500	△ 7,000	府施設協 220,000 市施連協 52,500
	4.京都府精神保健福祉協会費支出	10,000	10,000	0	
事務局費		2,400,000	2,368,870	△ 31,130	
	1.職員雇用費	1,050,000	1,050,000	0	事務委託費(京都府社協)
	2.役員務費	400,000	397,289	△ 2,711	郵送料、振込手数料、電話代、切手代
	3.需用費	200,000	199,091	△ 909	事務用品、用紙代
	4.備品費	10,000	0	△ 10,000	
	5.旅費	50,000	33,200	△ 16,800	事務局等旅費
	6.会議費	650,000	649,790	△ 210	役員旅費 資料印刷代等
	7.慶弔費	20,000	21,500	1,500	
	8.雑費	20,000	18,000	△ 2,000	支援機構会費 10,000 他
部会活動費		2,070,000	1,648,175	△ 421,825	
	1.行事部会活動費	400,000	359,222	△ 40,778	球技大会その他
	2.広報部会活動費	600,000	538,453	△ 61,547	「知福協だより」等
	3.福利厚生部会活動費	0	0	0	※休会中
	4.文化部会活動費	1,070,000	750,500	△ 319,500	京都府クラシックコンサート助成金 90,000 円を含む
委員会費		210,000	80,860	△ 129,140	
	1.予算対策委員会費	20,000	17,650	△ 2,350	
	2.研修委員会費	120,000	19,140	△ 100,860	
	3.調査研究委員会費	20,000	35,970	15,970	
	4.政策委員会費	50,000	8,100	△ 41,900	
種別分科会費		200,000	46,280	△ 153,720	
	1.発達支援部会費	50,000	38,280	△ 11,720	部会・分科会旅費
	2.生活支援部会費	50,000	0	△ 50,000	
	3.日中活動支援部会費	50,000	8,000	△ 42,000	
	4.地域支援部会費	50,000	0	△ 50,000	
積立金支出		138	96	△ 42	
	1.事業振興基金積立金支出	138	96	△ 42	
予備費		646,215	0	△ 646,215	
	1.予備費	646,215	0	△ 646,215	
支出合計		9,168,853	7,789,281	△ 1,379,572	

平成24年度京都知的障害者 福祉施設協議会組織体制

〈会長〉

矢野 隆弘 (かしのき)

〈副会長〉

塩見 正人 (福知山学園第二翠光園)
樋口 幸雄 (横手通り43番地「庵」)
中西 昌哉 (ベテスタの家)
寺本 眞澄 (京都市ふしみ学園)

〈地域連絡会〉

京都府連絡会代表 矢野 隆弘 (かしのき)
京都市連絡会代表 中西 昌哉 (ベテスタの家)

〈特別委員会〉

政策委員会

委員長 樋口 幸雄 (横手通り43番地「庵」)

研修委員会

委員長 平田 義 (空の鳥幼稚園)

人権・倫理委員会

委員長 中西 昌哉 (ベテスタの家)

〈種別部会・分科会〉

発達支援部会

(障害児入所支援、障害児通所支援)

部会長 渋谷 千鶴 (むくの木学園)
副部会長 脇田 宣 (白川学園)

施設入所支援部会

(障害者支援施設)

部会長 楠戸 良弘 (ききょうの杜)
副部会長 廣幡 顕一 (京北やまくにの郷)

日中活動支援部会

(生活介護、療養介護、自立訓練、地域活動支援センター)

部会長 三宅 州人 (障害者地域活動センター乙訓楽苑)
副部会長 赤井 和子 (洛西ふれあいの里授産園)

生産活動・就労支援部会

(就労継続支援B型、就労継続支援A型、就労移行支援)

部会長 寺坂 和博 (あしたーる工房)
副部会長 加藤 正樹 (テンダーハウス)

地域支援部会

(共同生活援助、共同生活介護、自立訓練〈宿泊型〉)、

福祉ホーム、居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援)

部会長 森 亮 (修光学園ディアコニアセンター)
副部会長 坂東 敏和 (相楽デイセンター)
中西 昌哉 (ベテスタの家)

相談支援部会

(相談支援事業、就業・生活支援センター、重度障害者包括支援)

部会長 須河 浩一 (相談支援センターいづみ)

〈事業部会〉

行事・文化部会

部会長 濱田 康寛 (障害者支援施設みずなぎ学園)

広報部会

部会長 奥村 研也 (るりけい寮)

〈監事〉

松井 芳子 (宇治川福祉の園)

〈従事者代表〉

瀧井 孝浩 (かしのき)

〈事務局〉

田中 里枝 (事務局員)

森 昇 前会長を偲んで

7月26日朝、「森前会長が逝去された」と突然連絡が入ってきた。思わず「えー」と耳を疑った。

5月には東日本大震災の被災地を約一週間かけて、お見舞いに回るとおっしゃっており、会長になりたての私は東北を回っておられることを知りながら、お聞きしたいことがあり、電話をしてお話をさせていただいていた。その後もメールで色々やり取りをさせていただいた。そのメールには必ず丁寧に返事をして下さっていた。

森前会長自身は公にも、「自分は『胆のう癌』であり、病とうまく付き合っています」とおっしゃっていた。修光学園の理事長として、そして10年もの長い期間京都知福協の会長として、他にも公私にわたって数々の役職を引き受けられ、病と闘いながら激務をこなされてきた。

京都知福協の会長を引き継がせていただき、わずか5ヶ月しかたっていない私がいづれも恥ずかしい限りであるが、会長であるがゆえに色々な役職を引き受けさせていただいている。会議が連続してあると、その会議の内容が頭に入らない状況になりつつある。森前会長の前夜式と告別式に参列させていただいたが、牧師さんのお別れの言葉の中に、森前会長は当て職を当て職と思わずいつも全力投球されてきたという意味のことをおっしゃっていた。まさにその通りであったであろうし、それは知福協の事業報告、事業計画などでもそうであった。また、毎年送っていただくおしなやかな修光学園の事業報告「Heart&Hand」にもそのセンスとこだわりを感じた。

享年63歳とあまりにも早いお別れに残念で仕方がない。

まだまだ、福祉の世界で活躍をしていただき、また教をいただきたいことがたくさんあるにもかかわらずである。

心からご冥福をお祈りいたします。

会長 矢野隆弘

森 昇 前会長の主な経歴



□主な職歴

1971年 社会福祉法人白川学園入職
1985年 小規模作業所修学院学舎開設 施設長就任
1987年 社会福祉法人修光学園設立 理事就任
1988年 修光学園開設 施設長就任
1996年 飛鳥井ワークセンター開設 施設長就任
1996年 社会福祉法人修光学園常務理事・総合施設長就任
1999年 社会福祉法人修光学園理事長就任

□主な社会的活動歴

1994年～2002年 京都知的障害者福祉施設協議会副会長
1995年～1996年 京都社会就労センター協議会副会長
1995年～2005年 全国社会就労センター協議会協議員
1996年～2005年 京都社会就労センター協議会会長
1996年～2005年 京都授産振興センター会長
2000年～2003年 全国社会就労センター協議会常任協議員
2000年～2003年 近畿社会就労センター協議会会長
2001年～2003年 日本障害者協議会協議員
2002年～2012年 京都知的障害者福祉施設協議会会長
2002年～2012年 日本知的障害者福祉協会評議員
2002年～ 京都市社会福祉協議会理事
2003年～2012年 京都市障害者施策推進協議会委員
2005年～ 京都府人権教育・啓発施策推進懇話会委員
2005年～ 京都市社会福祉施設連絡協議会会長
2005年～ 京都市社会福祉協議会副会長
2006年～ 京都府社会福祉協議会理事
2010年～ 京都市左京区社会福祉協議会理事

□主な表彰

2004年 京都市社会福祉協議会会長表彰受賞
2007年 京都市市長表彰受賞
2007年 全国社会就労センター協議会会長表彰受賞
2008年 京都市自治110周年記念表彰受賞
2009年 全国社会福祉協議会会長表彰受賞
2011年 京都ヒューマン大賞受賞
2011年 藍綬褒章受章

お詫びと訂正

前号(No.185)第8面の～シリーズこんなことやっています～「第1回京・であい市」に掲載させて頂いた施設名の表記に誤りがありました。「なづな学園」と誤って表記しましたが、正しくは「なづな学園」です。大変申し訳ありませんでした。